

大使からの活動報告

2014年2月前半(国会議長表敬及びティカル国立公園訪問他)

2014年2月14日

在グアテマラ日本大使(川原)

◆クレスポ国会議長への表敬・懇談

2月10日、クレスポ国会議長にお会いする機会がありました。2月10日の週からの国会では、各種委員会の委員長人選、今年5月に任期切れとなるパス・イ・パス検事総長(Attorney General)の後任人事、また、昨年には、野党による度重なる各大臣喚問要求により、国会重要法案・予算案の審議が停止してしまったことから、国会での大臣喚問の実施について一定のルール作りを野党と協議していくなど、議会として重要な局面を迎えている状況にあることなど、伺いました。当方からは、来年2015年が日本と中米諸国との外交樹立80周年を祝う交流年事業が予定されていること、この機会に人物・文化交流が促進されることを大いに期待していると申し上げ、同議長からは、日本は、グアテマラにとり大切な友好国であり、今後、議員交流面での交流を盛り上げたいとのご発言がありました。



◆エドガー・ロドリゲス社会開発大臣との表敬・懇談

ロドリゲス大臣は、現政権になり初めて設置された社会開発担当省の大臣として、7ヶ月前に就任をされました。総合的農村開発を農牧省と同省が協力して進めつつあること、地方での教育・保健プログラムと女性の能力開発・職業訓練を組み合わせるなどのお考えを伺いました。



同省の職員数は約1600名ですが、市内数カ所のビルに分散して勤務をしており、省内の日々の情報伝達・会議招集が、迅速に行えない事情もあるそうです。今後の活動が注目されます。

◆官房長官との表敬・懇談

2月11日、大統領府のすぐ近くにありますが百年以上前に立てられた2階建ての重厚な木造ビル内で執務されている官房長官をお訪ねしました。3年前のペレス・モリーナ現大統領選挙キャンペーンの頃からの大統領側近の方です。現在の主な役割は、国会提出法案、大統領令について、事前の各省との調整役を務めていること、自ら弁護士資格をお持ちで、また、乗馬がお好きでサラブレッド馬の馬主でもあると伺い



ました。当方から、来年2015年は日本・中米の外交関係樹立80周年の節目を迎えるので、交流年活動として各種事業が計画されつつあると申し上げました。

当国の主要シンクタンク代表者(Hugo Maul氏)との懇談

2月5日午後、当国有数のシンクタンクであるCIENのマウル代表にお会いし、お話しを伺いました。過去25年に亘り、CIENは、この国の公共政策についての政策研究を行っており、国会内にもオフィスを置いて、議員へ政策的助言を行い、建設的な審議が行われよう努めている。2年前、現政権に対して2012年から2020年までの経済・社会・治安に関する政策提言を提示している。過去25年間に7つの政党が政権党となったが、残念ながら持続的に実施されたプログラムは未だない、と伺いました。こうした事情の中で、2013年、民間から資金を得て、政府のための学校(EdG)を新たに設立し、良き官僚の育成のため、毎夕、公共政策に関する短期コース及び修士コースを開いており、現在150名程度の学生がいること、その中には、国会議員4名、次官2名(うち1名は、経済省で投資・国際競争力担当次官)も在籍している由伺いました。



2月5日午後、当国有数のシンクタンクであるCIENのマウル代表にお会いし、お話しを伺いました。過去25年に亘り、CIENは、この国の公共政策についての政策研究を行っており、国会内にもオフィスを置いて、議員へ政策的助言を行い、建設的な審議が行われよう努めている。2年前、現政権に対して2012年から2020年までの経済・社会・治安に関する政策提言を提示している。過去25年間に7つの政党が政権党となったが、残念ながら持続的に実施されたプログラムは未だない、と伺いました。こうした事情の中で、2013年、民間から資金を得て、政府のための学校(EdG)を新たに設立し、良き官僚の育成のため、毎夕、公共政策に関する短期コース及び修士コースを開いており、現在150名程度の学生がいること、その中には、国会議員4名、次官2名(うち1名は、経済省で投資・国際競争力担当次官)も在籍している由伺いました。

◆ペテン県公式訪問(2月12日)

2月12日、国内最北に位置して、最大の広さを有する県であるペテン県を空路訪問しました。



県都であるフローレス市に、フアン・ピント県知事とエドガル・アラゴン市長(左側写真の真ん中の方)にお会いしました。同市長からは、市下水道の普及に努めており、市人口の3分の1まで普及していること、市民の医療サービス向上のため医師と看護師チームによる巡回医療に力を入れていること、但し、移動用車両が不足していること、

また、地域産業の育成、振興につとめているが、製品の市場へのアクセス整備が今後の課題であるなどお伺いしました。また、フローレス島の小高い丘の上にある県庁舎でピント知事(右上の写真、右端から二人目の方)にお会いしました。同知事との会見では、県の最大の主要産業である観光促進に必要なインフラの整備に向けて、中央政府の支援を得て進める予定であること、また、1997年の常陸宮・同妃両殿下のペテン県へのご来訪時に地元民として歓迎した記憶を有しているなどと語っておられました。



◆ティカル国立公園文化遺産保存研究センター訪問



同じ 12 日、ティカル国立公園内に日本の援助で建設されたマヤ文化遺産保存研究センターを訪問しました。明るいセンター内は、電気ではなく太陽光を集めた自然の光を利用しており、環境に配慮した設計となっていること、マヤの千年以上に亘る各時代の土器の展示(写真)、

修復作業室と、修復を必要とする夥しい数の発掘品が保管されている立派な保存室など拝見しました。



同センター訪問後、同センターに勤務する当国第一級考古学者であるオスワルドさん、前田 JICA 所長のご案内(左側写真)により、ティカル遺跡を見学しま



した。まず、中央のアクロポリスにあるガバナー(支配者)の宮殿跡(右上写真)、その後、高さ 50 メートルを越す一号神殿(左下写真)、中央広場、二号神殿、五号神殿(右側写真)を見る機会がありました。



こうした神殿に使われる石は周辺から採掘されたようですが、マヤ文明では、金属器が使用されておらず、石斧で石を一定の大きさに切り、人力で運び上げたこと、一つの神殿は、一支配者の生存中に建設されるものであり、6年から20年くらいで一つの神殿が完成したのではないかとのお話を伺いました。



こうした多くの神殿の周りには、未だ発掘されていない神殿が、まだ、多数あるようです。発掘済みの雄大な規模の遺跡をみるだけでも、マヤ時代の天文学、幾何学、建築学などが、如何に高い水準にあったのか、大いに偲ぶことができます。

◆労働社会保障大臣への表敬・懇談

2 月 13 日、労働社会保障省執務室で、カルロス・コントラス大臣にお会いして、お話を伺う機会がありました。雇用機会促進のため、起業した際の税控除制度や、経済省と連携して投資促進を図るため法律を現議会に提出するべく国会議長に調整をお願いしていること、労働者の大半がインフォーマルセクターで働いており、これら労働者が多くの場合、最低労働賃金以下の環境で企業(事業所)働いており、労働基準調査官を増員して、事業所現場に



直接訪問させて、関連法律の遵守が必要であり、手続きを取るよう指導をしており、昨年1年間だけでも3万6千箇所の事業所を調査官が訪問して、成果を上げつつあること、地方分権化の流れの中で、市町村の特性に応じた産業振興を今後支援していく必要があるといったお話を伺いました。(了)